



# 国境都市 “ 丹東 ”



丹東周辺の地図

人口約70万人の丹東市は中国遼寧省東南部に位置し、中朝国境を流れる鴨緑江を挟んで北朝鮮(新義州)と国境を接する中国最大の辺境都市(国境都市)です。丹東といえば中朝間を結ぶ重要な物流ルート「中朝友誼橋」が有名ですが、皆さんは報道番組等で一度はご覧になったことがあるのではないのでしょうか。今回は国境都市として重要な役割を持ち、また近年大きく成長を続けている丹東の近況についてレポートします。

## 隣国「北朝鮮」との関係

先に述べました「中朝友誼橋」は中朝間を結ぶ重要な物流ルートとして利用されており、中朝貿易の約70%は丹東を拠点にしていると言われています。

2009年10月には中国の温家宝首相が訪朝し、中朝両国間での「経済合作協定」を結びましたが、その中の一つには総額15億米ドルを投じて、新たに中国と北朝鮮を結ぶ「新鴨緑江大橋」を建設することで、基本合意に達しています。中国側が費用全額を負担することから、中国が貿易相手国として北朝鮮を重視しており、北朝鮮の開放あるいは中朝貿易拡大に備え、インフラ整備を進めておきたいとの考えが伺えます。

## 海洋船舶工業園区プロジェクト

丹東は丹東港と浪頭港の2つの港を有しており、既に日本、韓国、北朝鮮、ロシア、香港等30数カ国、70カ所以上の港と海上航路が



北朝鮮との間にかかる「中朝友誼橋」

あります。これは地理的に恵まれていることが大きな要因ですが、近年は貨物取扱量でも年平均30%増加、コンテナ数量で同25%増加と確実に増えています。そこで管轄する遼寧省と丹東市は地理的利点に着目し、新たな産業の柱として造船産業を発展させることを計画しました。具体的には上記2港を中心とする船舶の関連部品供給から組立製造まで、船舶に関する工業地帯(海洋船舶工業園区)の確立を目指して建設が始まっています。計画では、敷地面積は667万 $m^2$ 、建築面積は40万 $m^2$ 、1万トンクラスの深水バース10カ所の建設を予定しています。



海洋船舶工業園区計画図

丹東市は、中国国内では人口規模の小さい一つの都市にすぎませんが、国際貿易拠点としての整備が着々と進められ、その拠点性の高まりには注目すべきものがあります。熱心な企業誘致活動も始まっており、今後の動きについて、しっかりと捉えておくべき都市の一つと言えます。

(大連駐在員事務所トレーニー 福嶋 靖貴)

## REPORT 「大連花園口経済区」の発展戦略の紹介 ～ 黄海沿岸での中型工業都市建設の動き～

### 1. 大連花園口経済区の位置

大連花園口経済区は、中国遼寧省庄河市に属します(遼寧省、吉林省、黒龍江省の海の玄関口である大連からは110km離れています)。気候は北温帯に位置しており、四季がはっきりしています。地勢は三面を山に囲まれ、南は黄海に接しています。また当区内には9本の河川が流れていることから、「九竜戲珠」と呼ばれており、風水では非常に良いと言われている地形を成しています。

花園口経済区の位置



### 2. 大連花園口経済区の歩みと特徴

花園口経済区は、2003年末、庄河市政府が新型工業園区を作るために区域内に廃棄されていた15km<sup>2</sup>の国有塩田を買収したのが始まりです。05年に遼寧省から沿海開放激励重点区域としての認定を受けました。また、08年5月には、黄海北岸にある中規模新興都市を目標として「大連花園口経済区」に改名されました。現在では国家戦略に認定された遼寧省の「五点一線」計画に含まれる一つの経済区として、企業誘致

遼寧省の「五点一線」計画における各経済区の位置図



↑ 中国政府が進める沿海部の重点開発エリア

に力を入れています。

1 「五点一線」...遼寧省内にある大連花園口経済区、遼西錦州湾沿海経済区、遼寧(营口)沿海産業基地、大連長興島臨海工業区、遼寧丹東産業園区の5地域を高速道路(全長1,443km)で結ぶ計画。2009年4月1日に国家戦略としての認定を受ける。

#### (1) 区域優位性

中国政府は大規模な開発をこれから重点的に進めていく沿海地区として、広西泛北部湾、珠江デルタ、長江デルタ、天津滨海新区、そして遼寧沿海経済地帯を指定しています。遼寧省においても、政府から指定を受けた、沿岸地区を、沿海開放激励重点区域として開発を進めています。中でも「大連花園口経済区」は、日本・韓国・台湾、香港に最も近く、日韓経済圏・北東アジア経済圏・環渤海経済圏の三つの経済圏にまたがっていることから、発展ポテンシャルが最も高い地区の1つと言えます。

#### (2) インフラ整備の充実

道路は大連 丹東間の大連 丹東高速道路、遼寧滨海道路、主要幹線である国道201号線が当区を東西に貫いており、中国東北地域の拠点

## 大連花園口経済区のインフラ整備状況



である瀋陽、大連、丹東とダイレクトに繋がっています。鉄道は大庄鉄道及び計画中的の東北東部辺境鉄道(中国とロシアと北朝鮮を結ぶ鉄道、路線は未確定)が当区を經由します。また建設中の庄岫鉄道は、当区内東北中腹に新たな線路を設置の予定です。航路については既存の港(庄河港)が当区より30km離れた場所にありますが、現在新たに当区内に1万トンレベルの埠頭を建設することが計画されています。

また当区の計画総面積は268km<sup>2</sup>と非常に広いのですが、既に企業進出が始まっている8km<sup>2</sup>の区域について「六通一平」(インフラ整備)の基礎施設を整えています。淡水資源が豊かで、水質基準も良く2元/m<sup>3</sup>の安価で企業用水を提供しています。また電力についても当区すぐ傍には中国最大の火力発電所(庄河発電所)があるため、十分な電力量が供給可能であり、国内外の大型プロジェクトを受け入れる体制が整っています。

2「六通一平」...「六通」とは市道、水道水、電力、通信、供熱(暖房、蒸気)及び有線テレビを指し、「一平」とは土地の地形を平に整え、交通の利便性を指す。いわゆるインフラ整備のことを言う。

## 大連花園口経済区の戦略

当区は、「国家級の新素材(新エネルギー)産業基地および情報化産業基地」として、省エネ新材料の研究・開発および製造、発光二極管(LED)産業、船舶部品産業を主体とした機械電子工業を中心にハイテク産業群を構築し、自動車部品、ファインケミカル、バイオ食品などの産業とも協調しながら発展させていくことを目標としています。

## エリア構成

区域名	機能
新材料産業区 (新材料産業)	国内外の先端新材料産業分野を導入
中・独環境保全省エネ産業モデルパーク (省エネ産業)	エコ、省エネ建築関連製品の研究開発、生産販売、実用モデル及び職業訓練
日本中小企業団地 (自動車及び部品、船舶精密部品、機械電子)	日本の電子、自動車部品、船舶精密部品関連産業
台湾光電産業基地 (環境保護産業、機械電子)	半導体及び新型照明技術、太陽エネルギー技術の推進と応用
台湾食品産業パーク (生物食品)	食品、保健用品の高度加工産業
研究開発及び生活関連区	商業センター、沿海研究開発センター



現在、当区では6つのエリアの整備を進めています(前ページ表参照)。以下、各エリアで行われている事業戦略を紹介します。

## (新材料、省エネ、環境保護産業)

産業、学術、研究を結合した新しい技術体制を作り、新技術 新製品 新市場の発展モデルを形成し、新素材、省エネおよび環境保護産業を重点的に発展させようとしています。その延長上として将来的に当区は、国内外の産業を融合する基地、東北3省の旧来型の工業地域を振興する先導区、循環経済と持続的に発展可能な模範地区としての役割を担おうとしています。また、2009年9月には中国政府から「国家ハイテク技術新型材料基地」としての認定を受けました。

## (自動車及び部品、船舶精密部品)

日本からの投資企業を誘致するべく「日本中小企業用地」のエリアを設けており、自動車、タイヤ、車用ペンキ、ブレーキ装置、自動車電子及び船舶精密部品などの集積を目指しています。

## (機械電子)

ソフトウェア、アウトソーシングサービスについては世界レベルの装備製造基地である大連と地理的に近く、豊かな技術力と強力な産業サービス機能を生かすために、大連光産業基地、中国船舶製造センター、現代装備製造業基地との一体化建設を目指しています。中でもLED産業、船舶部品産業、国際化機械電子企業の誘



建設中の花園口経済区内風景

致を主体とした機械電子工業体系を形成する予定です。

## (生物食品)

当区が面する黄海は、中国でも非常に恵まれた漁場の一つです。中でも貝類資源が豊富なため、水産物の分野で優位性を発揮することができます。また当区周辺では畜産も盛んなことから、周辺にある重点企業を生かし、世界グリーン食品と生物化学技術の発展のために、加工生物ハイテク産業群の形成が計画されています。

## 最後に

大連花園口経済区は地理的優位性と資源の豊富さを武器に、中国東北地方の対外開放モデル地区(国際的な中型工業都市)として発展する可能性は十分にあると思います。ただし、この壮大な計画の実現には、地元政府の政策実行に加えて国内企業だけでなく、外資企業をどれだけ誘致できるかが大きな鍵と言えそうです。

(大連駐在員事務所 宮城 正志)

参考資料：中国大連花園口経済区管委會資料